



女の化粧

橋 口 五 葉 木 版 画

Goyo Wood Block Print

耶　馬　溪

鴨



浴後の女



髪梳ける女



藝者



紅筆持てる女

五葉未完成版画

Goy Unfinished Work



温泉宿



温　泉



顔あらへる女



髪洗ふ女

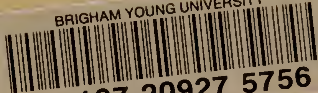


帯結べる娘



浴後の女二人

女と猫


BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 20927 5756

大正十年　二月二十四日中耳炎にて四十二才逝去。鹿児島郡元墓地に葬る

五葉は夏目漱石氏の「我輩は猫である」の装釘により一躍装釘画家として見出され明治より大正の間大いに活躍し五葉の装釘した単行本及雑誌はかなりの数になつている其の主なるものをひろへば

夏目漱石　「我輩は猫である」「漾虚集」「虞美人草」「鶉籠」「草合」「それから」「三四郎」「門」「四篇」「彼岸過迄」「坑夫」「野分」等

泉鏡花　「恋女房」「三味線堀」「鏡花集」「銀鈴集」「乗合船」「南地心中」「旅行車」「櫻草」「国貞ゑがく」

森鷗外　「一幕物」「みれん」「雁」「青年」「天保物語」「十人十話」「ちりひぢ」等

永井荷風　「紅茶の後」「すみだ川」「牡丹の客」「新橋夜話」等

其他　樋口一葉、二葉亭、内田魯庵、三好学、山路愛山、長田幹彦谷崎潤一郎、正宗白鳥島村抱月、与謝野晶子、中村春雨、森田草平、金子薫園、高浜虚子、鈴木三重吉、小宮豊隆、小杉天外、其他諸氏のものを多数手がけている。

○雑誌類の表紙、口繪、挿繪、**カツト**等も数多く

三田文学、婦人公論、**ホトトギス**、文芸、中学世界、**ハガキ**文学、新小説、文芸倶楽部、婦人画報新家庭、斯民、海軍、等有り。

○浮世繪に関する研究論文も多く東京朝日、新美術、新小説、美術新報、浮世繪、芸術談話十二講、読売新聞、錦繪、浮世繪研究、等に発表し論文集の計画もあつたが早逝の為中座した其研究の科学的な方法は当時の漸新なものであつた。

浮世繪版画集及其解説も多数出て居る。

大正五年頃より十年までの間は自画版画の自家出版に専心其死に至るまで熱心であつた。

五葉は浮世繪研究家として知られて居たので米国人浮世繪愛好家の来訪者及知人は多かつた。交遊者の中にも**ハツパー**氏（浮世繪研究家）及**ライト**氏（建築家帝国**ホテル**設計者）等交遊が深かつた**ハツパー**氏は一九三四年出版の氏の著書「**チヤパニーススズケツチアンドチヤパニーズプリント**」中に五葉の版画に言及志当時すでに五葉は歌麿清長に並ぶものと将来必ずなると予言せられて居るが今日の米人浮世繪愛好家の中ではも早其事は常識と成つて居る、であるから五葉の版画は米国人により高く評価され又発見された画家とも云へるのである。

米国にては再々五葉の展覧会が行われ美術館等にも所蔵され貴重なものとされて居る。

米国以外にても一九二五年パリー万国博覧会にて最高受賞し一九三二年スチウジオ誌に紹介された

橋口清（五葉）略歴

明治十三年	十二月二十一日鹿児島市に橋口兼満の三男として生れた。長兄貢次兄半次郎妹とみ子があつた。
明治三十二年	出京下谷区谷中清水町の長兄宅に住す。橋本雅邦に師事し後親類黒田清輝画伯のすすめにて白馬会に入り洋画を学ぶ
明治三十三年	東京美術学校西洋画科本科に入学当時学友に辻永、山下新太郎、和田三造、青山熊治、青木繁、坂本繁二郎等有り。
明治三十七年	特待生となり月謝を免ぜらる。
明治三十八年	夏目漱石に見出され小説我輩は猫であるの装釘をなし一躍装釘界に名をなす。美校卒業研究科に入る。
明治四十年	第一回文展油絵大作「羽衣」出品（後に明治大正名作展出品）東京勧業博覧会工芸部に「孔雀と印度女」油絵屏風を出品し二等賞を得。
明治四十二年	牛込区左内町次兄宅に住す。
明治四十四年	三越懸賞ビラに応募一等当選画名を高む。
明治四十五年	結城素明、平福百穂氏等と先声会をはじめ新日本画の運動に加わる。
大正四年	版画試作「浴女」を出版。
大正五年	やまと錦絵十二冊（版画及解説）を浮世風俗会のためにより出版す。赤坂台町に住す
大正七年	版画「化粧の女」「耶馬溪の雨」出版。
大正八年	岩波書店の求により保永堂版広重五十三次出版。今日紙値を高む。江戸絵鑑賞会の需により版画「雪の伊吹山」出版。
大正九年	岩波書店需により「歌麿集」出版す。自画版画製作に専心。自版画「神戸宵月」「京都三条大橋」「盆持てる女」「紅筆持てる女」「髮すける女」「長襦袢の女」「夏衣の女」「浴後の女」「手拭の女」を出版し今日米国にて歌麿、清長に伍する者として賞賛されて居る。